

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-18992

(P2010-18992A)

(43) 公開日 平成22年1月28日(2010.1.28)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
E O 4 B 1/64 (2006.01) E O 4 B 1/64 C 2 E O O 1

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2008-179938 (P2008-179938)	(71) 出願人	595133736
(22) 出願日	平成20年7月10日 (2008.7.10)		株式会社トーコー
			奈良県生駒市北田原町1208番6号
		(74) 代理人	100103654
			弁理士 藤田 邦彦
		(74) 代理人	100118522
			弁理士 藤田 典彦
		(72) 発明者	西田利博
			奈良県生駒市北田原町1208番6号 株
			式会社トーコー内
		Fターム(参考)	2E001 DA03 FA21 GA13 HB02 LA13

(54) 【発明の名称】 組み合わせ土台水切

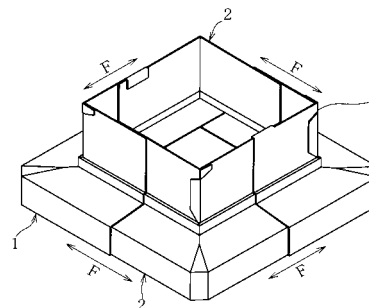
(57) 【要約】

【解決手段】本発明は、建造物のコーナー部分に設置される出隅用の土台水切で、覆設用土台水切と覆設用土台水切とを重ね合わせるように組み合わせることを特徴とする。また、組み合わせた2コーナー用組み合わせ土台水切ともう1つの2コーナー用組み合わせ土台水切とを組み合わせることを特徴とする。

【効果】重ね合わせて組み合しているため、覆設用土台水切と被覆設用土台水切とをスライドさせれば伸縮自在となり、建造物の張り出し部分や柱部分の寸法に柔軟に対応することができる。

また、同じような形状の土台水切を重ね合わせているので、伸縮したときにも見栄えがよい。

【選択図】 図9



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

建造物のコーナー部分に設置され、基台と立ち上がり面からなる出隅用の土台水切であって、

被覆設用土台水切に覆設用土台水切を覆設して組み合わせるものであり、

前記被覆設用土台水切と覆設用土台水切の基台は、前面と、その上側に平面、その下側に底面からなる断面コの字状であり、この基台が互いに直交する方向と、両者間に位置して面取りされた角部分を有するものであり、

少なくとも被覆設用土台水切の基台の前面は、覆設用土台水切の基台の前面に比して低く形成されることを特徴とする 2 コーナー用の組み合わせ土台水切。

10

【請求項 2】

建造物のコーナー部分に設置され、基台と立ち上がり面からなる出隅用の土台水切であって、

被覆設用土台水切に覆設用土台水切を覆設して組み合わせるものであり、

前記被覆設用土台水切と覆設用土台水切の基台は、前面と、その上側に平面、その下側に底面からなる断面コの字状であり、この基台が互いに直交する方向と、両者間に位置して面取りされた角部分を有するものであり、

少なくとも被覆設用土台水切の基台の前面は、覆設用土台水切の基台の前面に比して低く形成される 2 コーナー用組み合わせ土台水切と、

さらに、前記 2 コーナー用組み合わせ土台水切と同じもう一つの 2 コーナー用組み合わせ土台水切を、組み合わせたものであって、

20

互いの被覆設用土台水切に対して、互いの覆設用土台水切を覆設して、前記 2 つの 2 コーナー用組み合わせ土台水切を組み合わせることを特徴とする 4 コーナー用の組み合わせ土台水切。

【請求項 3】

被覆設用土台水切の基台と立ち上がり面の長手方向の長さが覆設用土台水切の基台と立ち上がり面よりも長く形成されていることを特徴とする請求項 1 または 2 のいずれかに記載の組み合わせ土台水切。

【請求項 4】

被覆設用土台水切の立ち上がり面は覆設用土台水切の立ち上がり面より高く形成されており、被覆設用土台水切に覆設用土台水切を覆設したときに、両者の立ち上がり面の高さが同じとなることを特徴とする請求項 1、2 または 3 に記載の組み合わせ土台水切。

30

【請求項 5】

覆設用土台水切の立ち上がり面の上辺と基台の底面の奥端縁部とを延長して折り返す係合部を有し、この係合部の両側方は開放されていることを特徴とする請求項 1、2、3 または 4 のいずれかに記載の組み合わせ土台水切。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、建造物の基礎と土台との間に雨水などが侵入することを防止するための土台水切であって、特に建造物のコーナー部分に設置するための出隅用の土台水切に関する。

40

【背景技術】**【0002】**

従来、建造物のコーナー部分に設置する出隅用の土台水切であって、角が面取りしてあるものが提案されている（特許文献 1）。

【0003】

特許文献 1 に記載された土台水切は 1 つのコーナーに取り付ける場合には問題はないが、建築物の一定幅の張り出し部分に取り付ける場合には、2 つのコーナーに取り付けなければならないので、問題が出てくる。

例えば、図 11 に示すように、2 コーナー用の 2 つの出隅用土台水切を一つの部材であ

50

る土台水切 201 として成型するものがあるが、この場合には、張り出し部分の幅に応じて、逐一、設計を変更しなければならず、製造上問題がある。

また、図 12 に示すように、1 コーナー用土台水切 203 を両コーナーに設置し、2 つの出隅用土台水切の間につなぎ合わせ部材 204 を配置する土台水切 202 もある。この場合においても、つなぎ合わせ部材 204 と出隅用土台水切との間に大きな段差が生じ、見栄えが悪い。

さらに、張り出し部分だけでなく、柱などに取り付ける場合には、4 つのコーナーにそれぞれ出隅用土台水切を取り付ける必要があり、上記の場合と同様に設計変更や見栄えの問題がある。

【0004】

10

【特許文献 1】特願 2007 - 220967 号

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

そこで、本発明の 2 コーナー用及び 4 コーナー用組み合わせ土台水切は、建造物の張り出し部分など 2 コーナーに設置する場合のみならず、柱など 4 コーナーに設置する場合においても、被設置場所の寸法に柔軟に対応できるように伸縮自在になっており、見栄えもよいものを提供することができる。

【課題を解決するための手段】

【0006】

20

本発明の組み合わせ土台水切は、建造物のコーナー部分に設置され、基台と立ち上がり面からなる出隅用の土台水切であって、被覆設用土台水切に覆設用土台水切を覆設して組み合わせるものであり、前記被覆設用土台水切と覆設用土台水切の基台は、前面と、その上側に平面、その下側に底面からなる断面コの字状であり、この基台が互いに直交する方向と、両者間に位置していて面取りされた角部分を有するものであり、少なくとも被覆設用土台水切の基台の前面は、覆設用土台水切の基台の前面に比して低く形成される 2 コーナー用の組み合わせ土台水切である。

【0007】

また、建造物のコーナー部分に設置され、基台と立ち上がり面からなる出隅用の土台水切であって、被覆設用土台水切に覆設用土台水切を覆設して組み合わせるものであり、前記被覆設用土台水切と覆設用土台水切の基台は、前面と、その上側に平面、その下側に底面からなる断面コの字状であり、この基台が互いに直交する方向と、両者間に位置していて面取りされた角部分を有するものであり、少なくとも被覆設用土台水切の基台の前面は、覆設用土台水切の基台の前面に比して低く形成される 2 コーナー用組み合わせ土台水切と、さらに、前記 2 コーナー用組み合わせ土台水切と同じもう一つの 2 コーナー用組み合わせ土台水切を、組み合わせたものであって、互いの被覆設用土台水切に対して、互いの覆設用土台水切を覆設して、前記 2 つの 2 コーナー用組み合わせ土台水切を組み合わせる 4 コーナー用の組み合わせ土台水切である。

30

【0008】

また、被覆設用土台水切の基台と立ち上がり面の長手方向の長さが覆設用土台水切の基台と立ち上がり面よりも長く形成されていることが好ましい。

40

【0009】

また、被覆設用土台水切の立ち上がり面は覆設用土台水切の立ち上がり面より高く形成されており、被覆設用土台水切に覆設用土台水切を覆設したときに、両者の立ち上がり面の高さが同じとなることが好ましい。

【0010】

また、覆設用土台水切の立ち上がり面の上辺と基台の底面の奥端縁部とを延長して折り返す係合部を有し、この係合部の両側方は開放されていることが好ましい。

【発明の効果】

【0011】

50

請求項 1 にかかる 2 コーナー用の組み合わせ土台水切は、被覆設用土台水切の基台の前面が短くなっているため、覆設用土台水切を覆設して組み合わせることが可能になる。これにより、被覆設用土台水切と覆設用土台水切とをスライドさせて伸縮自在とすることができる。

また、同じような形状の被覆設用土台水切と覆設用土台水切を重ね合わせて組み合わせるので、外観的にも違和感なく、見栄えがよい。

【 0 0 1 2 】

また、請求項 2 にかかる 4 コーナー用組み合わせ土台水切は、2 つの 2 コーナー用土台水切を対向させて組み合わせるものであり、各々の被覆設用土台水切に覆設用土台水切を覆設して組み合わせることができる。これにより、建造物の柱などの 4 コーナーに必要な場合であっても、その寸法に柔軟に対応することができ、見栄えがよい。

それに、同じ 2 コーナー用土台水切を使用することができるので、製造コストを下げることができる。

【 0 0 1 3 】

また、請求項 3 にかかる組み合わせ土台水切は、被覆設用土台水切の基台と立ち上がり面の長手方向の長さ分だけ伸縮自在とすることができる。これにより、建造物の張り出し部分の長さに柔軟に対応することができ、より長い範囲の伸縮が可能となる。

【 0 0 1 4 】

また、請求項 4 にかかる組み合わせ土台水切は、被覆設用土台水切と覆設用土台水切の立ち上がり面が同じ高さとなっているので、外観上違和感なく、見栄えがよい。

【 0 0 1 5 】

また、請求項 5 にかかる組み合わせ土台水切は、係合部により被覆設用土台水切と覆設用土台水切との組み合わせ状態で係合されるのみならず、係合部は両側方が開放されているので、スライドさせて伸縮自在とすることに支障がない。

また、主として住宅用に使用される部材は施工者が容易に施工できるものが求められているところ、本発明の組み合わせ土台水切は 2 コーナー用に組み合わせられた状態で施工者に届けられるので、搬送時に組み合わせ状態が外れることなく、そのままの状態で施工者が使用することが可能となる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 6 】

本発明の実施の一例を図面に沿って詳細に説明する。

図 1、2 は、覆設用土台水切 1、被覆設用土台水切 2 を表わし、図 3 ~ 5 は、覆設用土台水切 1 を展開した状態と組み合わせる状態を順に示し、図 6 ~ 9 は覆設用土台水切 1 と被覆設用土台水切 2 とを重ね合わせるように組み合わせ、覆設する状態を示し、図 10 は土台水切 101 を設置箇所に取り付ける状況を示したものである。なお、図 11、12 は従来例を示す。

【 0 0 1 7 】

図 10 に示すように、土台水切 101 は建造物の基礎と土台 103 との間に雨水などが侵入することを防ぎ、床下の湿気などから土台が腐ることを防止するために設置するものである。

水切本体 102 は建造物の基礎と土台 103 との間に設置し、通常は水切本体 102 の重ねしる部分 104 を土台 103 の表面に設置される壁材に重ね合わせ、水切本体 102 に土台水切 101 を取り付ける。本実施例にかかる土台水切は、特に建築物のコーナー部分に設置する出隅用である。土台水切 1 は、通常の土台水切 101 がコーナー位置にまで設置されている状態で、図 10 の矢印線 Z、Z に示すように、そのコーナー部分で水切本体 102 に重ねて嵌め込むように設置される。

【 0 0 1 8 】

図 1 に示す覆設用土台水切 1 と図 2 に示す被覆設用土台水切 2 は、いずれも展開した状態で製造され、図 3、図 4 の状態を経て図 5 に示すように使用者や施工者がコーナー部分に嵌め込むときに折りたたんで使用できる状態にする。そして、図 6、7 に示すように、

覆設用土台水切 1 と被覆設用土台水切 2 を組み合わせて、2 コーナー用の土台水切とし、各土台水切間を伸縮自在とし、コーナー間の長さに対応させることができる。そして、図 8 の状態を経て、図 9 に示すように、2 つの 2 コーナー用の土台水切を組み合わせることにより、4 コーナー用の土台水切にすることができる。この場合においても、2 コーナー用の場合と同様に伸縮自在とすることができる。

【0019】

図 1 に例示した覆設用土台水切 1 は、基台 12 a、12 b と立ち上がり面 13 a、13 b とを有している。基台 12 a、12 b は 1 枚の鋼板を平面と前面と底面とからなる断面略コの字状に成型したもので、その間に、中央基台 12 c がある。これらの位置関係は、一方向を向く基台 12 a とこの基台 12 a が向く方向と直交する方向に配置される基台 12 b と、両基台 12 a、12 b 間に角を面取りした形状の中央基台 12 c が配置されることになる。

基台 12 a、12 b の前面と底面との間の辺が全体として延長されて、突出辺 22 として形成される。これにより、水滴等が前面から底面をつたって建造物内に侵入することを防ぐことができる。

【0020】

覆設用土台水切 1 を展開した状態は、図 3、4 に示すものであって、図 3 に対して図 4 は裏側から示す。図 3 に示すように、基点 15 a、15 a から 15 b、15 b への折りたたみ線 A、A に沿って、手前側が基台 12 a で、奥側が基台 12 b となり、その間が中央基台 12 c となる。

なお、折りたたみ線 A、A は図面の説明のために便宜上、示すものである。

基台 12 a、基台 12 b と中央基台 12 c の上面は 15 a、15 a を基点として V 字状に各々切除され、切除部分 14、14 が形成されている。切除部分 14、14 の間に中央重ねしろ 16 が形成される。切除部分 14、14 の切り欠きの度合いは、後述のように、折りたたみ時に基台 12 a、12 b の両上面と中央重ねしろ 16 とが、少なくとも一部分において重なり合う状態となる程度に切除部分を設けることが必要で、15 a、15 a を基点とする基台 12 a、12 b 側の切除は、折り返し線 A、A に対して約 25 ないし 35 度の切欠とすることが好ましい。

【0021】

中央重ねしろ 16 は 15 a、15 a を基点として切除部分 14、14 が形成された間に形成される。中央重ねしろは基台 12 a、12 b の上面の奥行き長さとほぼ同じ長さを有する。

後述のように、折りたたみ時に基台の中央基台 12 c の側面が覆設用土台水切 1 の角の面取り部分となり、使用者や利用者の安全等を考慮した面取り部分としての機能を果たす必要がある。そこで、角が取れて接触した場合の安全性を担保する機能を発揮するため、中央重ねしろ 16 の幅、つまり基点 15 a、15 a 間距離は一定以上、全体長さが約 300 mm であるのに対して 10 mm 程度の重ねしろを設けることが必要である。

【0022】

基台 12 a、12 b の上面の基点 15 a、15 a がある辺と反対側の辺から垂直方向へ連続して立ち上がり面 13 a、13 b を形成する。2 つの立ち上がり面 13 a、13 b のうち立ち上がり面 13 a 側に係合重ねしろ 17 が配置されている。もう一方の立ち上がり面 13 b 側に係止片 18 が配置されている。

係合重ねしろ 17 は立ち上がり面 13 a のうち前記切除部分 14 が設けられている内側端縁に折り曲げた状態で配置され、係止片 18 は重ねしろ 17 の上端と係合させ得る高さのところに配置されている。これにより折りたたんだときに重ねしろ 17 の上端と係止片 18 の下端とが係合する。

係止片 18 は立ち上がり面 13 b の上端付近から突出する突出片として形成されている。係止片 18 は折り返し可能な片であり、係合重ねしろ 17 と係合する下端に平坦な辺を形成する。これにより、係合重ねしろ 17 との係合が容易になり、立ち上がり面 12 a の押し上げを止めて、組合わせ状態を保持することが可能になる。

【 0 0 2 3 】

図 1 は本実施例にかかる土台水切の基台 1 2 a、1 2 b を折りたたんだ状態を示す。折りたたみ方法は基台 1 2 の図 3 に示す基点 1 5 a、1 5 a から基点 1 5 b、1 5 b までの折りたたみ線 A、A (仮相線) を支点として基台 1 2 a、1 2 b を、覆設用土台水切 1 が直角になるように折りたたむ。この場合に、基台 1 2 b の内方側上面に、中央重ねしろ 1 6 が上から重なり、その上から基台 1 2 a の内方側上面が重なるように折りたたむ。すると、基台 1 2 b の上面、中央重ねしろ 1 6、基台 1 2 a の上面が、少なくとも一部で 3 枚重ねとなるように組合わせることができる。

この構成で覆設用土台水切 1 を折りたたむことにより、折りたたみ線 A、A 間の中央基台 1 2 c の側面が、直角の土台水切を面取りをした状態となり、建造物に適用したとき角張った土台水切に接触して怪我を負うことなどが防止され、安全な土台水切を提供することができる。

10

また、基台 1 2 b の上面、中央重ねしろ 1 6、基台 1 2 a の上面とが、少なくとも一部で 3 枚重なるようにすることで角部分の強度が増し、折りたたみ時にリベット、釘等の取付部材を使用することなく、面取りされた角部分を提供することができる。

【 0 0 2 4 】

本実施例にかかる覆設用土台水切 1 を折りたたんだ状態では、図 1 に示すように、係合重ねしろ 1 7 と係止片 1 8 による係合部材により折りたたみ状態を保持することができる。つまり、係合重ねしろ 1 7 を立ち上がり面 1 3 b の表面に係合し、係止片 1 8 を折り曲げて立ち上がり面 1 3 a の表面に係合することにより、折りたたみ状態を保持することができる。しかも、本実施例にかかる覆設用土台水切 1 の角部分においては、基台 1 2 b の上面、中央重ねしろ 1 6、基台 1 2 a の上面とが、少なくとも一部で 3 枚重なっているの

20

ので、最も上側に位置する基台 1 2 a 上面から連続する立ち上がり面 1 3 a に垂直方向へ押し上げられる力が作用する。そこで、垂直方向へ押し上げられる立ち上がり部 1 3 a に配置された係合重ねしろ 1 7 の上端と係止片 1 8 の下端とを係合することで、係止片 1 8 により垂直方向への押し上げを止めることができ、同一高さの立ち上がり面 1 3 a、1 3 b を有する覆設用土台水切 1 を提供することができる。

30

【 0 0 2 5 】

また、係止片 1 8 は立ち上がり面の上辺を折り返す構成も考えられるが、折り返すという製造上の工程が増えること、係合重ねしろ 1 7 を挿入しなければならなくなり組合わせることが容易でなくなる。本実施例にかかる係止片 1 8 は突出した片を折り返して係合重ねしろと組合わせればよく、簡易な係合が可能になり、全体の組合わせが容易になるメリットがある。

【 0 0 2 6 】

図 4 に示すように、本実施例にかかる覆設用土台水切 1 の基台 1 2 の底側は、基台 1 2 a の底面、基台 1 2 b の底面と底面重ねしろ 2 1 とからなる。

基点 1 5 b、1 5 b から奥に向けて切り欠かれており、両切欠 2 0、2 0 間には底面重ねしろ 2 1 が配置されている。また、基台 1 2 b の底面の一部を延長して、係合部 2 4 が形成されている。

40

基台 1 2 a の底面は基点 1 5 b までを長辺、奥行き長さを短辺とする長方形に形成されている。一方、基台 1 2 b の底面は基点 1 5 b から奥行き長さを一定幅としたうえで、前記切欠 2 0 に向けて 4 5 度の角度で切除されている切除部分 1 9 を有している。

この場合には、基台 1 2 b の底面側を折りたたみ線 A から折りたたんだとき、底面重ねしろ 2 1 の幅方向の中央線上に前記切除部分による基台 1 2 b 底面の傾斜辺を位置させることができ、底面重ねしろ 2 1 と同方向になるので、意匠上好ましい折りたたみ形状となる。

底面重ねしろ 2 1 は基台上面の中央重ねしろ 1 6 に対して短く形成されている。重ねし

50

ろ 1 6 に対して底面重ねしろ 2 1 はおよそ 3 分の 1 程度の長さにするといよい。

【 0 0 2 7 】

このように、一方の基台 1 2 a の底面を長方形形状とし、もう一方の基台 1 2 b の底面に切除部分 1 9 を形成し、底面重ねしろ 2 1 を短くしたことで基台 1 2 a、1 2 b の底面側を折りたたんで組み合わせるのを簡単に行うことができる。

すなわち、図 5 に示すように底面重ねしろ 2 1 に基台 1 2 a の底面を重ね合わせ、そのうえに基台 1 2 b の底面を重ね合わせる。すると、基台 1 2 a の底面は長方形形状をしているので底面重ねしろ 2 1 を確実に押さえることができ、そのうえから大きな切除部分 1 9 を有する基台 1 2 b の底面を重ね合わせることになるので、重ね合わせることが容易になり、なおかつ前述のように見栄えがよい底面を実現することができる。このようにして、
10

また、図 4 に示すように、基台 1 2 a、1 2 b の側面と底面との接続部分である辺の角を丸めて突出辺 2 2 とした場合には、使用時に底面の水分が底面を伝って建造物の内方に浸入するのを防止することができる。

【 0 0 2 8 】

また、図 1 に示すように、覆設用土台水切 1 の立ち上がり面 1 3 a、1 3 b の上辺の一部を延長したうえで折り返される係合部 2 3 が形成されている。係合部 2 3 と立ち上がり面 1 3 a、1 3 b との間に被覆設用土台水切 2 の立ち上がり面 3 3 a を入れることで係合する。この係合部 2 3 は、両側方が開放されているので、覆設用土台水切 1 の被覆設用土台水切 2 への覆設状態を保持することができるとともに、覆設用土台水切 1 と被覆設用土台水切 2 とをスライドさせて伸縮自在とすることができる。
20

また、図 4 に示すように、基台 1 2 の底面 1 2 a、1 2 b の奥側辺の一部にも上記の場合と同様に係合部 2 4 が形成されている。この係合部 2 4 も、前記係合部 2 3 と同じ形状であり、被覆設用土台水切 2 の底面を係合するとともにスライドさせて伸縮自在とすることができる。

【 0 0 2 9 】

一方、図 2 に示す被覆設用土台水切 2 も、基本的には覆設用土台水切 1 と基本的には同じ形状であり、基台 3 2 a、3 2 b と立ち上がり面 3 3 a、3 3 b とを有している。

基台 3 2 a、3 2 b を折りたたみ、覆設用土台水切 1 の場合と同様に角を面取りして、少なくとも一部が 3 枚重ねとなるように組み合わせる。
30

【 0 0 3 0 】

図 2 に示すように、被覆設用土台水切 2 の基台 3 2 a、3 2 b は、覆設用土台水切 1 の基台 1 2 a、1 2 b に比して長手方向（矢印 B の方向）に長くなっている。これと同じく、被覆設用土台水切 2 の立ち上がり面 3 3 a、3 3 b も、覆設用土台水切 1 の立ち上がり面 1 3 a、1 3 b に比して長手方向（矢印 B の方向）に長くなっている。これは、覆設用土台水切 1 に被覆設用土台水切 2 が重ね合わせるように組み合わせられた上で、スライドさせて伸縮自在とするための伸びしろとするためである。

具体的には、覆設用土台水切 1 の基台 1 2 a、1 2 b と立ち上がり面 1 3 a、1 3 b に比して、被覆設用土台水切 2 の基台 3 2 a、3 2 b と立ち上がり面 3 3 a、3 3 b が例えば 1 . 2 倍程度の長さとするすることができるが、この長さのみに限定されるものではない。
40

より具体的には、覆設用土台水切 1 の基台 1 2 a、1 2 b の水平方向の長さが例えば 1 1 9 mm であれば、被覆設用土台水切 2 の基台 3 2 a、3 2 b の長さを例えば 1 4 3 mm とすると、組み合わせた場合の強度上、一定の重なりしろが必要となるので、実質上 1 0 5 ないし 1 5 0 mm の伸縮範囲がとしておくのが望ましい。

【 0 0 3 1 】

また、被覆設用土台水切 2 の基台 3 2 a、3 2 b の前面 4 7 a、4 7 b は、覆設用土台水切 1 の基台 1 2 の前面 2 7 a、2 7 b に比して垂直方向に短くなっている。これは、両者が全く同じ大きさであれば重ね合わせることができないので、被覆設用土台水切 2 の基台 3 2 a、3 2 b の前面 4 7 a、4 7 b を垂直方向に短くすることで、断面コの字上の基台 1 2、3 2 を組み合わせ得るように調節したものである。
50

具体的には、覆設用土台水切 1、被覆設用土台水切 2 に厚みが例えば約 0.5 mm の鋼板を使用したとすると、被覆設用土台水切 2 の基台 3 2 a、3 2 b の前面 4 7 a、4 7 b は垂直方向に約 1 mm 短くしている。

【0032】

また、被覆設用土台水切 2 の立ち上がり面 3 3 a、3 3 b の垂直方向の高さは、覆設用土台水切 1 の立ち上がり面 1 3 a、1 3 b の垂直方向の高さより高く形成されており、組み合わせたときに被覆設用土台水切 2 の立ち上がり面 3 3 a、3 3 b と覆設用土台水切 1 の立ち上がり面 1 3 a、1 3 b とが同じ高さとなるようにしてある。

これは、被覆設用土台水切 2 の基台 3 2 の前面 4 7 が垂直方向に短く形成されていることで、重ね合わせて組み合わせたとき、同じ高さであれば被覆設用土台水切 2 の立ち上がり面 3 3 a、3 3 b が低くなり見栄えが悪くなるので同一高さとなるようにしてある。

10

【0033】

本実施例に係る組み合わせ土台水切の使用方法について説明する。

図 6 に示すように、被覆設用土台水切 2 に覆設用土台水切 1 を矢印 C の方向へ重ね合わせるように組み合わせ覆設する。この場合において、覆設用土台水切 1 の係合部 2 3、2 4 に、被覆設用土台水切 2 の立ち上がり面 3 3 a の端縁部、基台 3 2 a の底面の奥端縁部を係合させる。図 6 では係合部 2 3、2 4 が折り返されておらず、両者を組み合わせながら折り返す場合が示されているが、あらかじめ折り返していてもよい。

これにより、図 7 に示すように、長手方向に長く形成された被覆設用土台水切 2 の基台 3 2 a、立ち上がり面 3 3 a、3 3 b の分だけ、両者の係合が外れない限り、矢印 D の方向にスライドさせて伸縮自在とすることができる。

20

かくして、2 つのコーナーに取り付けられる 2 コーナー用の土台水切となり、柱などの設計に柔軟に対応できる伸縮自在の 2 コーナー用組み合わせ土台水切とすることができる。

【0034】

また、図 8、9 には、覆設用土台水切 1 と被覆設用土台水切 2 とを組み合わせた 2 コーナー用組み合わせ土台水切 3 と、それと全く同じ 2 コーナー用組み合わせ土台水切 3 とを、組み合わせる場合が例示されており、両組み合わせ土台水切 3、3 を組み合わせることにより 4 コーナー用の土台水切とすることができる。

図 8 に示すように、同じ形状の 2 つの 2 コーナー用組み合わせ土台水切 3、3 を対向させると、1 方の 2 コーナー用組み合わせ土台水切 3 の覆設用土台水切 1 ともう 1 方の 2 コーナー用組み合わせ土台水切 3 の被覆設用土台水切 2 とが、そして 1 方の 2 コーナー用組み合わせ土台水切 3 の被覆設用土台水切 2 ともう 1 方の 2 コーナー用組み合わせ土台水切 3 の覆設用土台水切 1 とが対向することになり、矢印 E の方向に重ね合わせ、それぞれを組み合わせ覆設する。

30

この場合、2 コーナー用組み合わせ土台水切 3 を組み合わせる場合のように係合部 2 3、2 4 は、配設されていない。これは、2 コーナー用組み合わせ土台水切が出荷時に既に組み合わせであるから、その状態を保持する必要があるが、4 コーナー用組み合わせ土台水切は施工者が現場で組み合わせるものであり、簡単に組み合わせることができるためである。

40

なお、4 コーナー用組み合わせ土台水切の場合にも、同じく係合部を配設して、被覆設用土台水切 2 の立ち上がり面 3 3 a、3 3 b、基台 3 2 の底面に対して、側方からスライドさせて係合させてもよい。

かくして、図 9 に示すように、4 コーナーに対して取り付けることができる組み合わせ土台水切とすることができ、柱等 4 つのコーナー間の長さに対応させ得るように、矢印 F の方向に伸縮自在とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0035】

【図 1】本発明の 2 コーナー用組み合わせ土台水切に使用する覆設用土台水切を示す斜視図である。

50

【図 2】本発明の 2 コーナー用組み合わせ土台水切に使用する被覆設用土台水切を示す斜視図である。

【図 3】本発明の 2 コーナー用組み合わせ土台水切に使用する覆設用土台水切の一部が成型され、他の部分を展開した状態で示す斜視図である。

【図 4】図 3 に示す覆設用土台水切を折りたたんで組合わせた状態を示す斜視図である。

【図 5】覆設用土台水切の折りたたんで組合わせた状態であって、その底面を示す斜視図である。

【図 6】覆設用土台水切と被覆設用土台水切とを組合わけて覆設する状態を示す斜視図である。

【図 7】覆設用土台水切と被覆設用土台水切とを組合わけて覆設し、2 コーナー用組み合わせ土台水切としたことを示す斜視図である。

【図 8】図 7 に示す 2 つの 2 コーナー用組み合わせ土台水切を組合わけて覆設する状態を示す斜視図である。

【図 9】2 つの 2 コーナー用組み合わせ土台水切を組合わけて覆設し、4 コーナー用組み合わせ土台水切としたことを示す斜視図である。

【図 10】土台水切を建造物に取り付ける状態を示す斜視図である。

【図 11】2 コーナーに用いられる土台水切の従来例を示す正面図である。

【図 12】2 コーナーに用いられる土台水切の第 2 の従来例を示す正面図である。

【符号の説明】

【0036】

1 ... 覆設用土台水切

2 ... 被覆設用土台水切

3 ... 2 コーナー用組み合わせ土台水切

1 2 a ... 基台

1 2 b ... 基台

1 2 c ... 中央基台

1 3 a ... 立ち上がり面

1 3 b ... 立ち上がり面

1 4 ... 切除部分

1 5 a ... 基点

1 5 b ... 基点

1 6 ... 中央重ねしろ

1 7 ... 係合重ねしろ

1 8 a ... 係止片

1 8 b ... 係止片

1 9 ... 切除部分

2 0 ... 切欠

2 1 ... 底面重ねしろ

2 2 ... 突出辺

2 3 ... 係合部

2 4 ... 係合部

2 7 a ... 前面

2 7 b ... 前面

3 2 ... 基台

3 2 a ... 基台

3 2 b ... 基台

3 3 a ... 立ち上がり面

3 3 b ... 立ち上がり面

4 7 a ... 前面

4 7 b ... 前面

10

20

30

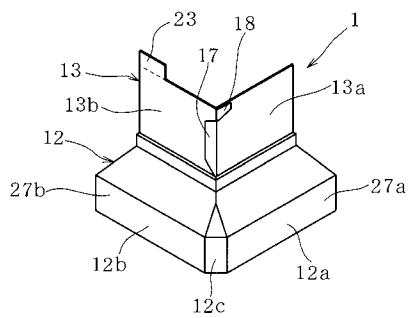
40

50

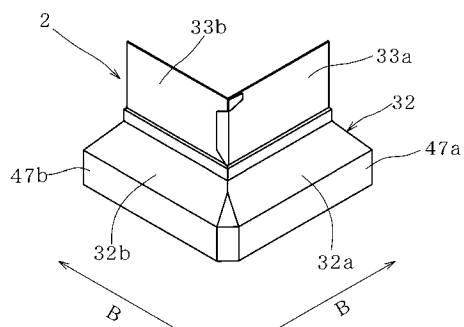
- 1 0 1 ... 土台水切
- 1 0 2 ... 水切本体
- 1 0 3 ... 土台
- 1 0 4 ... 重ねしろ部分
- 2 0 1 ... 土台水切
- 2 0 2 ... 土台水切
- 2 0 3 ... 1 コーナー用土台水切
- 2 0 4 ... つなぎあわせ部材
- A ... 折りたたみ線
- B ... 長手方向
- C ... 組み合わせ線
- D ... スライド方向
- E ... 組み合わせ線
- F ... スライド方向
- Z ... 嵌め合わせ線

10

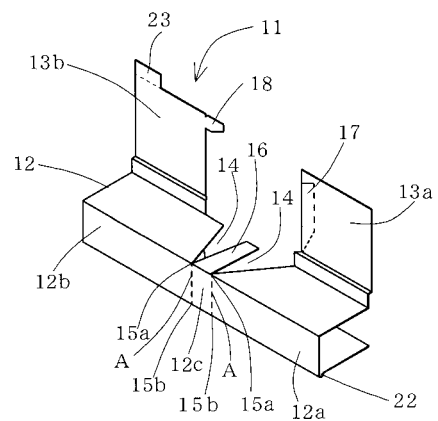
【図 1】



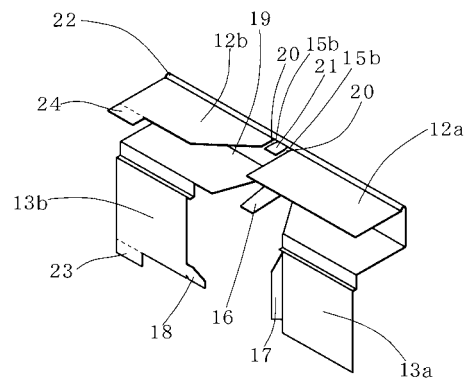
【図 2】



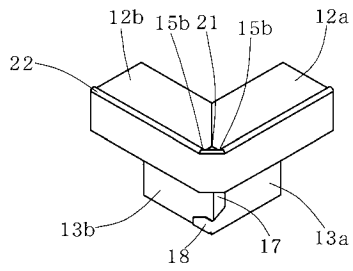
【図 3】



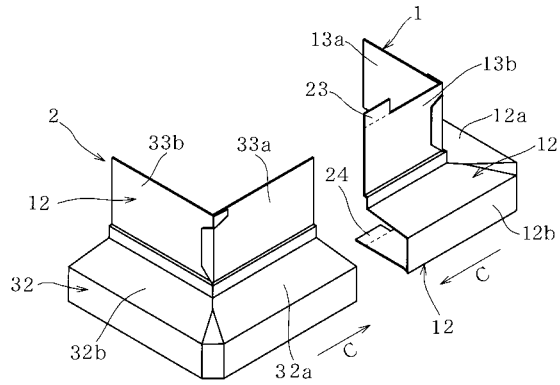
【図 4】



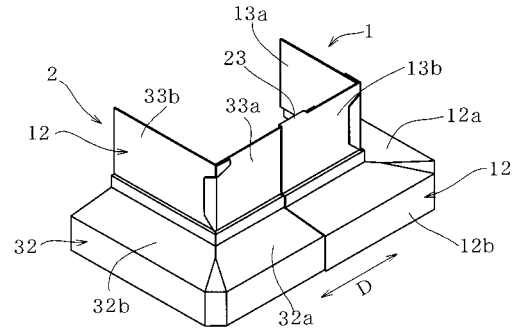
【図 5】



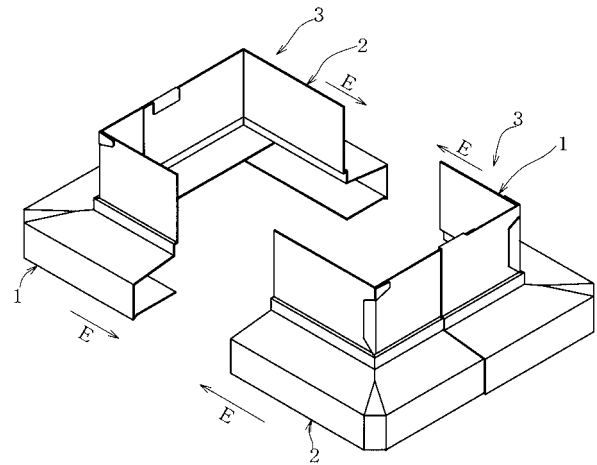
【図 6】



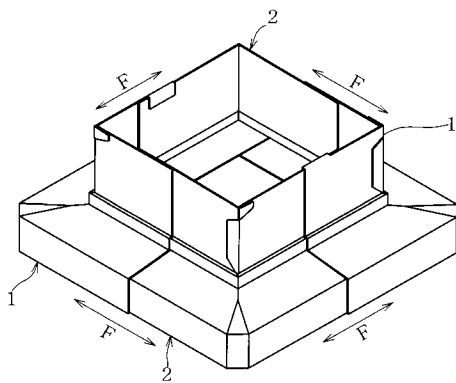
【図 7】



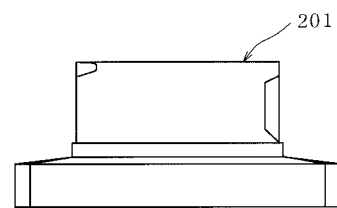
【図 8】



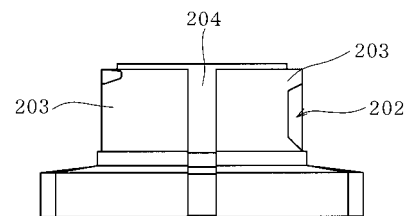
【図 9】



【図 11】



【図 12】



【図 10】

